

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成18年6月29日(2006.6.29)

【公開番号】特開2000-321487(P2000-321487A)

【公開日】平成12年11月24日(2000.11.24)

【出願番号】特願平11-135595

【国際特許分類】

G 02 B	7/28	(2006.01)
G 03 B	17/20	(2006.01)
G 03 B	13/36	(2006.01)

【F I】

G 02 B	7/11	N
G 03 B	17/20	
G 03 B	3/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月12日(2006.5.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

図3において、100はカメラ本体に内蔵されたマイクロコンピュータの中央処理装置(以下、CPUという)であり、このCPU100には、測光回路102、自動焦点検出回路103、信号入力回路104、LCD駆動回路105、LED駆動回路106、シャッタ制御回路108、モータ制御回路109が接続されている。また、焦点調節回路110と絞り駆動回路32は前述したように撮影レンズ30内に配置されており、図1で示したマウント接点37を介して信号の伝達を行う。100aは前記CPU100に付随したEEPROMであり、各種調整データを記憶する記憶機能を有している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

次のステップ#109においては、スイッチSW1がONされているか否かを判定し、OFFであればステップ#101へ戻るが、ONされていればステップ#110へ進み、CPU100はカメラに装着されたレンズとの間で相互通信を行う。これにより、測光やAFを実行するのに必要なレンズ情報、例えば、撮影レンズの開放FNO.、ベストピント位置等の情報がカメラのメモリに転送される。又ここで、33組のラインセンサCCD-0、CCD-1～CCD-32は被写界光の蓄積動作を開始し、現時点での像ズレ量(デフォーカス量)を測定する。さらに確定された焦点検出領域に基づいて測光演算を行う。